

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第6回 No. 5 駅周辺まちづくり協議会
開 催 日 時	令和8年9月19日(土) 9時30分～10時15分
開 催 場 所	武蔵村山市役所 4階 402学習室AB
出席者及び欠席者	出席者：藤野委員長、安部委員、数馬委員、豊泉委員、矢部委員、石川委員、梶原委員（計7名） 欠席者：西原副委員長、長谷川委員、遠田委員、川島委員 事務局：沿線まちづくり課長、同課計画係長、同係主任、同係係員、同課調整係長 開催運営支援：株式会社フジヤマ
報 告 事 項	前回の振り返り
議 題	①「提言書（案）」に係る意見交換 ②全6回を通しての感想
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	提言書（案）の掲載内容について意見交換を行うとともに、全6回を通しての感想を共有した。 今回の意見を踏まえ、提言書（案）を事務局で体裁を整え、市長へ報告する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) 〔凡例〕 ◎委員長 ○委員 ●事務局 (市) ■ファシリテーター (株フジヤマ)	【報告事項】前回の振り返り ■ 資料1に基づき報告 【議題①】「提言書（案）」に係る意見交換 ■ 資料2に基づき説明 ■ 前回欠席の委員から、全体を通しての感想や意見を伺いたい。 ○ 提言書（案）はよくまとめていただいております、本校として協力できる余地も残していただいている。また、私の発言した「総合体育館の施設を拡充・道路沿いを活性化する」という話も取り込んでいただき、ありがたく思っている。 このような形で実現していけば、まちも市民も活性化していくのではないかと。今後を楽しみにしている。 ■ そのほかの委員はいかがか。 ○ 提言を実現していくという観点から、修正の指摘ではなく、追加事項として、私が得た情報を伝えたい。27ページの歴史・文化資源の魅力発信について、前回、禅昌寺の事例を話したが、その後、禅昌寺の住職と須賀神社の神主に、地域の活性化について話を伺った。 須賀神社からは2点の話があった。1点目は、須賀神社の奥にある奥の院が、地元では「岸の天王様」と呼ばれ、笠間神社の流

れをくむ稲荷関係の場所であり、知られていないが非常に価値のある場所であるため、多くの方に知ってもらい、参拝してもらいたい。２点目は、参拝に訪れるにも道の整備が足りず、迷ってしまう人が非常に多く、観光資源としてもっと活用してもらい、市に協力したいとのことであった。また、里山民家は施設としても知名度としても高いため、里山民家への誘導路を整備するならば、禅昌寺や須賀神社を通る、一連の経路として整備するほうがよいのではないかという意見であった。

禅昌寺からは、今後、観光施設として市がアピールすることは賛成であり、機会があればいつでも協力したいとのことであった。また、禅昌寺の境内には、少年飛行兵の戦没者を慰霊する「少飛の塔」があり、武蔵村山市内には、かつて少年飛行兵を養成する施設があったが、鹿児島県の知覧などと異なってしまう歴史は広く知られていないため、平和について考える地域資源としてもっと活用してもらおうとよいという話であった。あわせて、ルートの開発が大事であり、里山民家への誘導路の整備をしてもらいたいとのことであった。

もう１点、３０ページの三ツ木地区学習等供用施設の再整備について、特に若者の利用という観点から、武蔵村山高校の生徒からも意見を聞き、取組んでいくとよい。前回補足したように、多摩大学では高校と大学が連携して地域課題を解決するプログラムを実施しており、昨年から武蔵村山高校も参加している。そこで、武蔵村山高校に加えて多摩大学も活用することで、地域の活性化につながるのではないか。

■ 神社仏閣やそこに至るまでの道についての意見をいただいた。ほかに気づいた点はあるか。
(意見なし)

■ 提言書についての意見交換はここまでとする。詳しく確認した際に、表現や内容について意見があれば、事務局まで連絡いただきたい。

◎ ただいまの説明について、ほかに質問等はないか。
(質問なし)

【議題②】全６回を通しての感想

◎ 本日が最終回であるため、皆様から一言ずつ感想をいただきたい。

○ 商工会の広報を見返しながら、モノレール誘致から何年経つのかと考えていたが、ようやく新青梅街道が広がり、形が見えてきた。そして、地元の方やいろいろな団体から率直な意見が数多く出され、様々な思いが詰まった提言書になった。

モノレールが来たからといって、すぐに道路が整備され、学生の安全な通学路が確保されるということは難しいと思う。しかし、まず第一歩としてモノレールが開通することで人の流れが変わり、皆さんの意見が反映されていくことになる。これから何年も先を見据え、バスだけではなく、高齢化が進む中での有効な交通手段として定着して欲しい。

この会議で多くの意見が出され、それが積み上がったことが良かったと思う。いろいろな方の意見を聞けたことは、ここで生活していくうえでも大きな勉強になった。

- 武蔵村山市には様々な地域資源があり、また、いろいろな方の考えを聞かせていただいたことで、武蔵村山市に対する皆さんの思いを感じた。

最後まで気になっているのは、送迎保育ステーションである。

前回、保護者と保育士との関係性について指摘したが、No. 1 駅からNo. 5 駅まで全ての駅に誘導すると示されており、No. 4 駅協議会でも幼稚園の園長が参加し、同様の指摘をしていると聞いている。私も保育業界で働いているが、送迎保育ステーションの導入を決める前に、幼稚園や保育園の園長だけでなく、保育士の生の声を聞いたうえで再検討していただきたい。

- 先ほど話をさせていただいたので手短にするが、私が重要だと考えるのは、提言のままで終わらず、それを実行し、No. 5 駅周辺のまちが確実に成長していくことである。

例えば、私が前回話した産学連携についても、本来であれば、ここで終わりではなく、どのような形で魅力を発信していくかを一緒に検討したかった。提言で終わらせず、これを実行するための検討組織を設置し、皆で議論したい。言いつばなしで終わるのではなく、責任を持って実行し、定着させることを、引き続きこの協議会で行うことが私の希望である。

- まちづくりで大事なものは、住民や市民の思いを反映させることであり、そこに参加できたことは大変ありがたく思っている。

私は区域外に在住しているため知らないところも多かったが、地域の魅力を再確認したり、新たに発見したりすることができたことで、貴重な機会となった。先ほど豊泉委員からも話があったとおり、これを実行に移すことが大事であり、そこに期待している。また、発見できた資源について、その周辺も含めて魅力を引き出すようなまちづくりになるとよい。

- 協議会を開催し、様々な立場の方から意見をいただき、提言書にまとめていただいたことを大変うれしく思っている。私が各回で申し上げた点もうまくまとめていただき、ありがたい。

先ほど豊泉委員からも話があったように、立派な提言書をまとめて終わりではなく、時代の流れに対応して内容を常にアップデートし、何がまちづくりにとって良いのかという視点でまちを作っていく必要がある。

武蔵村山市の最も不利な点は駅がないことであり、交通の不便さはまちの魅力や発展への最大の障害要因になってしまっている。10年後を見据え、5つの駅ができることは今後の発展に大きく寄与すると思う。

先月、都知事からニューヨーク大学誘致に関する発表があり、本当なのかと思って聞いていたが、それだけ武蔵村山市にポテンシャルがあるということだと思う。横田基地もあり、将来的に大学が誘致されるのであれば、国際色豊かなまちになる可能性もある。その点も踏まえ、モノレールを作るだけでなく、ハード面とソフト面の両面をそろえ、行政、市民、民間が十分に連携しながら、一緒にまちを作っていけるとよい。

- 本校が参加させていただき、生徒にとっても学びが深まる良い経験をさせていただいたことに感謝している。今回参加した生徒

は、モノレールが開通する頃には大人になり、この地域を支える人材になっていくと思う。

モノレールができたときにストロー効果で学生が立川方面に流れてしまわないようにするためには、武蔵村山高校が地域に根ざした学校となることが重要である。学校として体制を整え、地域と連携し、地域の力を借りながら、本校の約800人の生徒が地域に貢献していくことが、学校自体をより良いものにしていくことにつながっていく。そのことを、モノレールを契機とした地域のまちづくりという形で再確認させていただき、大変ありがたかった。今後ともよろしくをお願いしたい。

- ◎ 最後に私からもお礼を申し上げる。今年の3月に第1回目の会議が始まり、本日を含め全6回にわたり、大変熱心に議論いただいたことに、委員長として厚くお礼申し上げる。

本協議会では、No. 5 駅周辺の具体的なまちづくりの検討を進めてきたが、土地利用、景観、道路・交通ネットワーク、そして地域資源の活用といった多岐にわたるテーマについて、皆様と大変意義深い意見交換ができたと感じている。

今回いただいた意見については、先ほど案として説明した提言書としてしっかり取りまとめ、市長に提言する。この提言は、今後の具体的なまちづくりの参考として活用されることになる。モノレール延伸、また先ほど話のあった大学誘致の件もあるが、本市の未来に向けて、引き続き皆様のお力添えをお願いしたい。

長期間にわたるご参加、誠にありがとうございました。

【その他】

- 全6回を通じ、事務局として不慣れな進行や資料送付の遅れなどにより、皆様にご迷惑をおかけしたが、本日最終回を迎え、提言書として良いものがまとまったと感じている。また、これがゴールではなくスタートであるという意見や、常にアップデートしていく必要があるという意見も事務局として受け止めたところである。

本日の会議録、まちづくりニュース及び皆様の意見を踏まえて修正した提言書（案）を、後日送付する。新たな内容の盛り込みは難しいが、誤字脱字や、ニュアンスが読み取りにくい箇所があれば意見をいただきたい。

提言書については、市長及び庁内に報告するほか、市のホームページにも掲載する。

なお、提言書34ページの検討体制では、委員の氏名を掲載していない。

市が作成する計画書では委員の氏名や役職を掲載することが一般的であるが、今回は協議会による提言書であること、今後、土地利用や都市計画の変更に踏み込んでいくこと、また、No. 4 駅では氏名を掲載していないことから、No. 5 駅も合わせて掲載しない方向としたいが、異なる意見があれば、メール等で連絡いただきたい。

No. 2 駅の協議会が9月5日から始まっており、今後も提言書を作成していき、まちづくりに対する関心が高まり、意見が活発になってきたと実感している。今後、いただいた提言書をもとに都市計画の変更等を検討していく中でも、適宜、皆様の意見を伺いながら進めていきたい。

	◎ 最後に、全体を通して意見等はあるか。 特にないようであるため、本日の第6回No. 5 駅周辺まちづくり協議会を終了する。 以上
--	---

会議の公開・ 非公開の別	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 傍聴者： 1 人
-------------------------	--

会議録の開示・ 非開示の別	☒ 開示 ☐ 一部開示(根拠法令等：) ☐ 非開示(根拠法令等：)
庶務担当課	都市整備部 沿線まちづくり課 (内線：279)

(日本産業規格A列4番)